

## 「生まれつきの盲人の癒し(1)」

ヨハ9:1~12

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①十字架にかかる前の年の仮庵の祭り(半年前)
- ②イエスは神殿を去ったが、まだエルサレムにとどまっている。
- ③この箇所は、ヨハネの福音書の7つの奇跡の第6番目を含む。
- ④イザヤによるメシア預言(イザ42:7):メシアは盲人の目を開く。
- ⑤イエスは何人もの盲人の目を開かれたが、この箇所の癒しは、特別である。  
\*イエスのメシア性を示すメシア的奇跡である。
- ⑥ヨハ8:12の宣言の直後に起きた奇跡である。

「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」(ヨハ8:12)

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

「イエスは生まれつきの盲人を癒す」(§100)

ヨハ9:1~41

### 2. アウトライン

- (1) 肉体的癒し(1~12節)
- (2) 最初の尋問(13~17節)
- (3) 両親の尋問(18~22節)
- (4) 第2の尋問(23~34節)
- (5) 霊的癒し(35~41節)  
\*今回は(1)を取り上げる。

#### \*今回のアウトライン

- (1) イエスの選び(1節)
- (2) 神学的質問(2~5節)
- (3) 癒しの業(6~7節)
- (4) 癒しの結果(8~12節)

### 3. 結論:

- (1) 絶望的なケース

(2) シロアムの池

イエスは、世の光である。

I. イエスの選び(1節)

1. 1節

「またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた」(1節)

(1) 盲人は、他者の慈善によってしか生きる道はなかった。

①神殿に近い場所が、最も収入を得られる場所である。

②使3:2では、生まれつき足のなえた人が、「美しの門」に置かれていた。

③この箇所の奇跡は、恐らく、イエスが神殿を去った直後に起こったのであろう。

(2) イエスは主権者としてこの盲人を選んでいる。

①絶望的なケース：生まれつきの盲人

②この人は、靈的にも盲目である。

II. 神学的質問(2~5節)

1. 2節

「弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。『先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか』」(2節)

(1) ユダヤ人たちは、すべての苦難は罪が原因となって起こると信じていた。

①彼自身の罪のゆえに、彼は盲目に生まれついたのか。

②両親の罪のゆえに、彼は盲目に生まれついたのか。

(2) エゼ18:4

「見よ。すべてのいのちはわたしのもの。父のいのちも、子のいのちもわたしのもの。罪を犯した者は、その者が死ぬ」(エゼ18:4)

①人は、その人自身の罪の責任を問われる。

(3) 出20:5

「それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、」(出20:5)

①親の罪は、子孫の代にまで影響を及ぼす。

(4) 人は、誕生の前に罪を犯すことができるのか。

- ①パリサイ派の教え
- ②胎児には、善なる性質と悪なる性質が与えられている。
- ③悪なる性質が勝つと、敵意をもって母親の腹を蹴飛ばすようになる。
- ④これは、両親を敬わないという罪である。
- ⑤この盲人の癒しは、メシアにしかできないものである。

## 2. 3節

「イエスは答えられた。『この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです』(3節)

(1) イエスによる第3の答え。

- ①AでもBでもなく、Cである。

(2) ロマ3:23

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」(ロマ3:23)

- ①この人や両親が罪を犯さなかったという意味ではない。
- ②罪は、この世界に死と呪いをもたらした。  
\*すべての人は、罪人である。
- ③しかし、特定の病や試練を、罪の結果だと考えてはならない。

(3) 神はこの人が盲目で生まれることを許された。

- ①神のわざがこの人に現れるためである。

## 3. 4~5節

「わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。わたしが世にいる間、わたしは世の光です」

(1) 日常的な体験を用いた教え

- ①夜間に働いているのは、城壁の見張り人か、羊飼いくらいである。
- ②人は、昼の間に働き、夜は休む。

(2) イエスにとっては、昼の間とは、公生涯の期間である。

- ①イエスは、十字架の時が迫っていることを知っておられた。
- ②夜とは、十字架の死を意味する。

③時が与えられている間に、自分を遣わしてくださった父なる神のわざを行う。

### III. 癒しの業(6~7節)

#### 1. 6節

「イエスは、こう言ってから、地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に塗って言われた」(6節)

(1) イエスは、つばきで泥を作られた。

①アダムは、地のちりから造られた。同じ物質である。

②癒しの方法としてではなく、この盲人の信仰を育てるためであろう。

(2) この方法は、パリサイ人たちとの論争を喚起するためのものである。

①安息日に行われた癒しである。

②口伝律法では、安息日に行ってはならない癒しの方法が例示されている。

\*目にぶどう酒を塗る。

\*目に、つばきで作った泥を塗る。

#### 2. 7節

「『行って、シロアム(訳して言えば、遣わされた者)の池で洗いなさい。』」そこで、彼は行って、洗った。すると、見えるようになって、帰って行った」(7節)

(1) シロアムの池は、エルサレムの南端にある池である。

①言葉遊びがある。ヘブル語で「シロアハ」は「遣わされた」の意味である。

②イエスは、父なる神から遣わされて、御業を行っている。

③イエスは盲人をシロアムの池に遣わし、癒しを行う。

(2) この池は、仮庵の祭りの期間、エルサレムで最もにぎやかな場所となる。

①この癒しは、群衆が注目する中で行われた。

②盲人は、イエスの命令通りに行い、癒された。

③もしイエスがメシアなら、どうして安息日に癒すのかという反発が起こる。

### IV. 癒しの結果(8~12節)

#### 1. 8~9節

「近所の人たちや、前に彼が物ごいをしていたのを見ていた人たちが言った。『これはすわって物ごいをしていた人ではないか。』ほかの人は、『これはその人だ』と言い、またほかの

人は、『そうではない。ただその人に似ているだけだ』と言った。当人は、『私がその人です』と言った」

- (1) 人違いではないかという議論が起こった。
  - ①盲人の様相が、激変したことがうかがわれる。

- (2) 当人は、自分がそれだと言い張った。

## 2. 10～11節

「そこで、彼らは言った。『それでは、あなたの目はどのようにしてあいたのですか。』彼は答えた。『イエスという方が、泥を作って、私の目に塗り、「シロアムの池に行って洗いなさい」と私に言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました』(10～11節)

(1) もしそれが当人なら、当然の疑問は、どうして目があいたのかということである。

- (2) 彼は、事実をありのままに述べている。
  - ①イエスという方
  - ②彼は盲人だったので、一度もイエスを見たことがない。

## 3. 12節

「また彼らは彼に言った。『その人はどこにいるのですか。』彼は『私は知りません』と言った」(12節)

- (1) 見たことがないので、その人がどこにいるのか、知らない。
  - ①肉体的な目は開かれた。
  - ②霊的な目は閉ざされたままである。

## 結論：

### 1. 絶望的なケース

- (1) 「神の栄光が現れるためである」
  - ①生まれつき盲人であることが、神の栄光の現れだということではない。
  - ②神は盲人を癒すことができるということが、証明された。
  - ③すべての状況は、神の管理下に置かれている。

- (2) ヨハ5:5～6

「そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた。イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。『よくなりたいか』(ヨハ5:

5~6)

- ①ベテスダの池の周りには、多くの病人が伏せっていた。
- ②イエスは、絶望的なケースを選ばれた。
- ③この時も、安息日の癒しである。
- ④神は悪の作者ではないが、悪を用いてでも栄光を現される。

(3) 試練に会ったとき、神には第3の答えがあることを思い出せ。

## 2. シロアムの池

### (1) 地理的状況

- ①ヒゼキヤ王がアッシリヤ軍の攻撃に備えて、全長533mのトンネルを掘った。
- ②ギホンの泉からシロアムの池まで水を導いた。
- ③仮庵の祭りの間、大いに賑わっていた。

### (2) 聖句

「この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水をないがしろにして、レツインとレマルヤの子を喜んでいる。それゆえ、見よ、主は、あの強く水かさの多いユーフラテス川の水、アッシリヤの王と、そのすべての栄光を、彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、ユダに流れ込み、押し流して進み、首にまで達する。インマヌエル。その広げた翼はあなたの国の幅いっぱい広がる」(イザ8:6~8)

- ①北王国イスラエルは、アッシリヤに対抗するために、アラムに頼った。
- ②【主】は、ゆるやかに流れるシロアハの水である。
- ③アッシリヤは、洪水のように北王国を滅ぼす。
- ④エルサレムは、首まで水に浸かるような経験をする。

(3) 主イエスのご人格を思い出せ。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです」(マタ11:28~30)